

しーきゅうぶ東海村



原子力防災アンケートを実施 村民主体の訓練実施を村へ提案

第10号
2010年 5月25日発行

題字：山口欽一

しーきゅうぶ東海村では、2009年12月21～22日に行われた、国の原子力総合防災訓練に参加された方々のご協力を得て、原子力防災に関するアンケートを実施しました。アンケート結果の抜粋をご紹介します。回答いただいた300名以上の方々のご意見をまとめ、さらに、しーきゅうぶ東海村メンバーの観察結果を含めて、村民主体の訓練実施に向けた3つの提案を村に行いました。

※このアンケート結果は、村に報告後、県に提供され、国の防災訓練評価委員会でも取り上げられました。

※アンケートにご協力いただいた自治会連合会や児童・民生委員会に結果をご報告しました。

※アンケート結果の詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.hse-risk-c3.or.jp/index/>（2010年6月1日より運用開始）

<調査の実施概要>

○調査時期：2009年12月16日（調査票配布日）～2010年1月27日（最終回収日）

○調査対象：原子力総合防災訓練参加者150名およびその家族・知人・友人等

○有効回答：314件（総配布数450に対する回収率69.8%）

しーきゅうぶ東海村の提案

1. 原子力災害時の情報提供方法について

- ・戸別受信機の作動状況把握のため、広報誌で予告後、試験放送を行う。
- ・更新期に戸別受信機の多機能化（小型軽量化、多チャンネル化、親子式など）を検討する。
- ・放送内容は短く簡潔にし、繰り返し放送する。
- ・緊急性が分かるように「頭出し」を工夫する。

2. 自家用車避難について

県が行った検証を踏まえ、混雑緩和の方法やバス手配の可能性など、東海村の実現可能な避難手段を検討する。

3. 村民主体の防災訓練に向けて

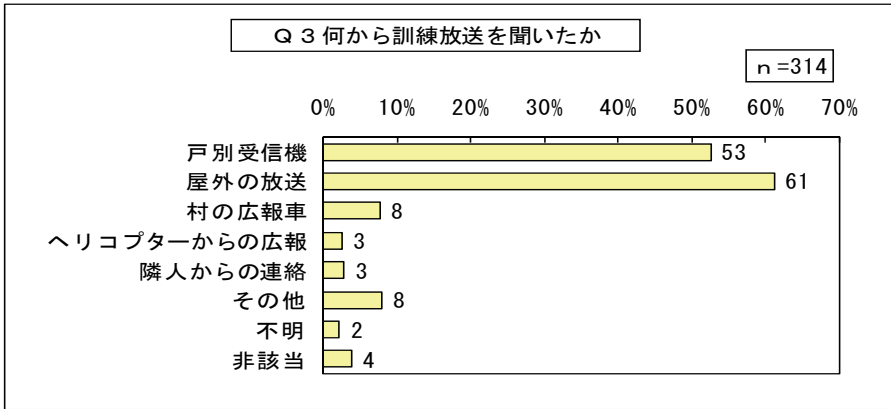
自治会（安全・安心部会や自主防災組織）による計画立案や実施方法の検討、評価を行う。



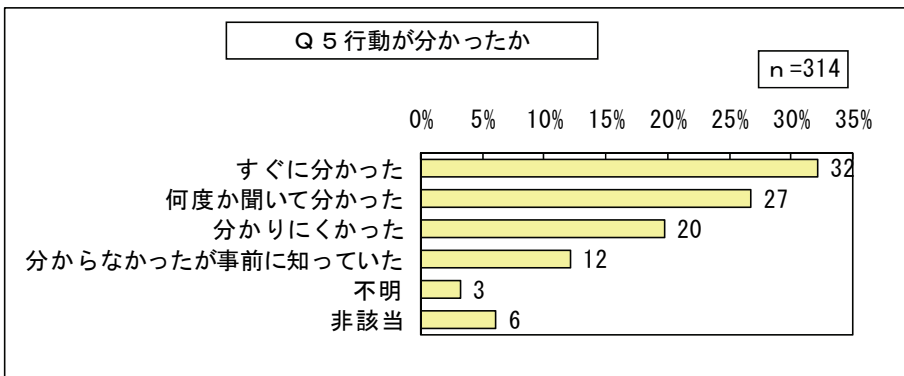
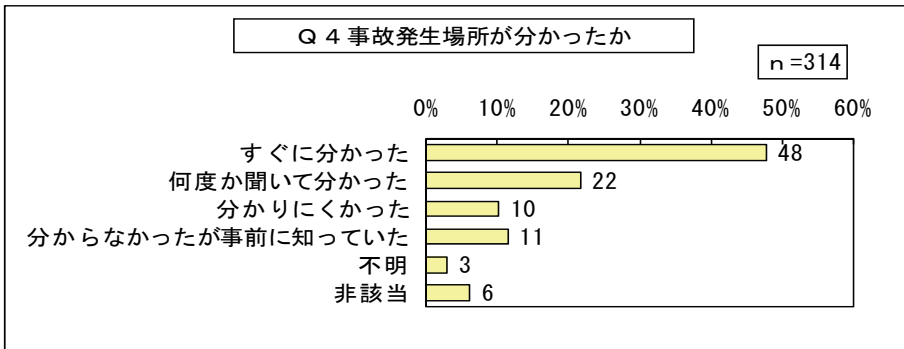
避難車両の長い列（避難先でも渋滞が発生した）

目次

トピック紹介	1
主な原子力防災アンケートの結果としーきゅうぶ東海村の提案	2～3
お知らせ	4



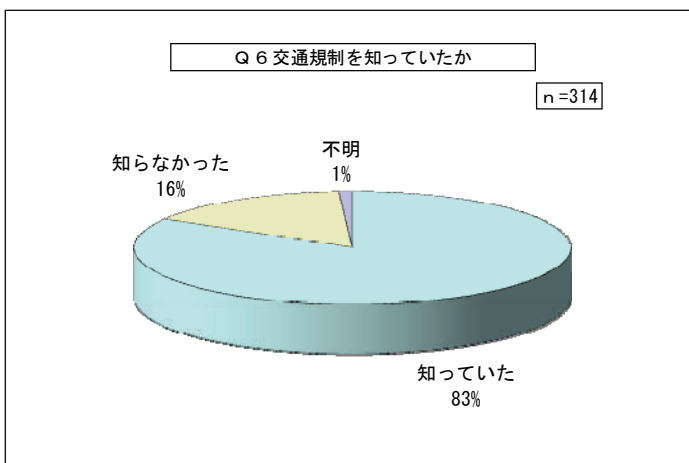
自由記述では、「聞こえにくい」(10件) 時間のずれや遅れ(7件) 放送内容の問題点(8件) に関するご意見がありました。



提案 1

しーきゅうぶ東海村は、情報提供方法の改善として以下を提案します。

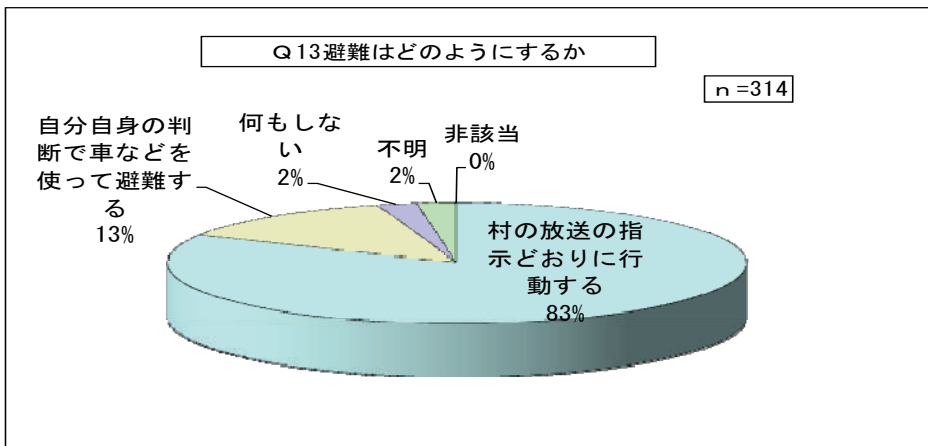
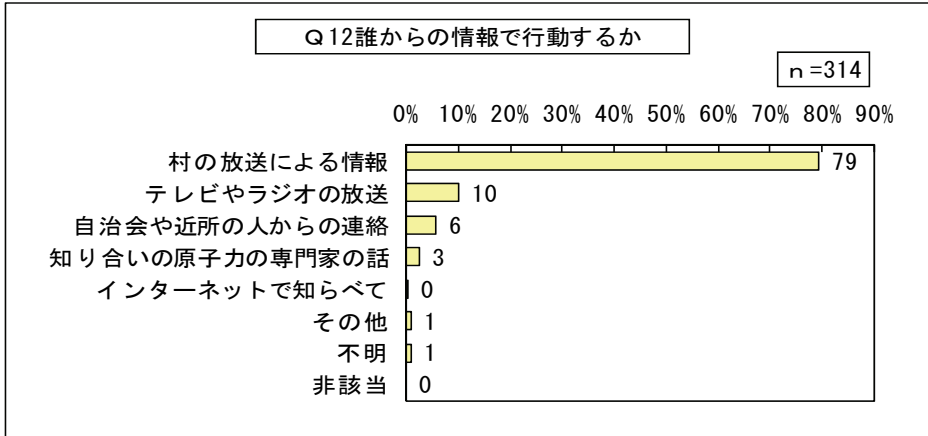
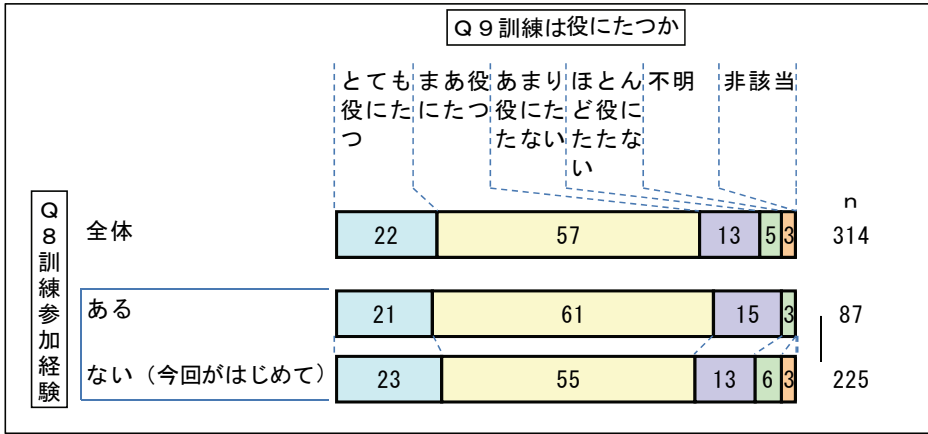
- 戸別受信機の作動状況把握のため、広報誌で予告後、試験放送を行う
- 更新期に戸別受信機の多機能化(小型軽量化、多チャンネル化、親子式など)を検討する
- 放送内容は短く簡潔にし、繰り返し放送する
- 緊急性が分かるように「頭出し」を工夫する



自由記述では、自動車避難に対する疑問や不安が11件寄せられました。しーきゅうぶ東海村メンバーの観察でも、渋滞や避難所での誘導ミスが指摘されました。

提案 2

しーきゅうぶ東海村は、県が行った検証を踏まえ、混雑緩和の方法やバス手配の可能性など、東海村の実現可能な避難手段の検討を提案します。



アンケート結果によれば、8割の方が原子力防災訓練を役立つと考えていらっしゃいます。これは訓練参加経験によって違いはありません。また、緊急時には「村の放送による情報」で「村の放送の指示どおりに行動する」方が8割であり、村の役割に大きな期待が寄せられています。一方、現状の訓練に対しては、以下に示すご意見・ご提案が23件寄せられました。

- ① 評価・改善の仕組みづくりや改善程度を検証する訓練の実施
- ② 地区別訓練を通じた村民参加型訓練の実施（例えば、休日実施による参加者の増大など）
- ③ お年寄りや障がい者、外国人など参加者の多様化
- ④ 訓練記録（ビデオなど）を用いた不参加者との議論の場づくり

提案3
 しーきゅうぶ東海村は、上記のご意見を実現する方法として、**自治会（安全・安心部会や自主防災組織）による計画立案や実施方法の検討、評価**を提案します。

右の写真は、昨年11月の村松北区の一般防災の訓練時に、しーきゅうぶ東海村より「原子力防災の基礎」をお話した時のものです。各地区で、身近な取り組みを工夫されることが村民主体の防災訓練につながると考えます。



村松北区防災訓練での「原子力防災の基礎」説明風景(21年11月1日)

「しーきゅうぶ東海村」とこれまでの活動について

しーきゅうぶ東海村とは

「しーきゅうぶ東海村」の前身は、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」です。この会は、2003年より「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」プロジェクトの中心的な活動組織として、原子力事業所とのリスクコミュニケーションを行ってきました。2005年2月にプロジェクトは終了。提言する会の活動を続けていくため、特定非営利活動法人HSEリスク・シーキューブの東海村支部を立ち上げました。

HSEとは、日々の暮らしに関係のあるリスク、健康—Health（ヘルス）、安全—Safety（セーフティ）、環境—Environment（エンバイロメント）のことです。

シーキューブとは、私たちが意識して活動している次の3つのCが、支えあうことで信頼と安心の空間ができるようにとの願いをこめて、立方体を表すキューブと呼んでいます。

地域社会—Community（コミュニティ）
対話—Communication（コミュニケーション）
協働—Collaboration（コラボレーション）

原子力防災訓練への提案活動

しーきゅうぶ東海村は、2004年から原子力防災訓練に参加し、住民として安心できる訓練方法について村に提案をしてきました。特に、シナリオ通りではない訓練の実施、有効な避難方法の検討、防災教育の実施は、繰り返し提案してきたものです。今回のアンケートで、多くの村民の方々も私たちと同じ考えをもっていらっしゃるのことが分かり、さらに皆さんといっしょに原子力防災を考える活動を展開したいと思っています。

しーきゅうぶ東海村では、地域の原子力防災を考える活動をお手伝いしたいと考えています。下記の問い合わせ先（全体事務局）あてお気軽にご相談ください。

佐藤隆雄（東海村支部代表）



しーきゅうぶ東海村 会員 & オブザーバー募集

しーきゅうぶ東海村で活動してみませんか？ 原子力事業所の視察活動では、事業所のご協力の下、事業活動の詳しい説明を受けたり、少人数での施設見学ができたり、安全対策に提案をしたり、原子力安全に関わる機会があります。視察に参加できるのは正会員と活動会員の方です。

正会員	入会金	3,000円	年会費	5,000円
活動会員	入会金	3,000円	年会費	3,000円
個人賛助会員	入会金	2,000円	年会費	1口 2,000円（何口でも）

※入会希望、会員種別変更希望の方は、全体事務局へお問い合わせください。

<オブザーバー制度を設けました！>

原子力の安全に関心がある方、しーきゅうぶ東海村の活動に意見を言いたい方、ぜひオブザーバーにご登録ください。会費など費用は一切かかりません。登録いただいた方には、広報誌をお届けしますので、気づいた点などがありましたら、お知らせください。その他、しーきゅうぶ東海村が企画する市民講座や対話活動などについてもご案内します。

しーきゅうぶ東海村の活動予定

6月 9日(水)13時半～14時半 6月定例会
6月19日(土)15時半～17時 通常総会
場所：東海村合同庁舎 3F会議室

※定例会は原則として毎月第2水曜日です。

<お問い合わせ先>

特定非営利活動法人 HSEリスク・シーキューブ全体事務局
〒201-8511 東京都狛江市岩戸北2-11-1
財団法人電力中央研究所 社会経済研究所内
全体事務局担当：土屋智子
電話 070 (6568)8991 Fax 03 (3480)3492
メール：tsuchiya@criepi.denken.or.jp
ホームページ：http://www.hse-risk-c3.or.jp/